

七五三詣に彩りを添える菊花展

「子育て厄除八幡さま」として知られる大宮八幡宮（杉並区大宮2-3-1）の境内で、「第37回杉並大宮菊花展」が開催されています。七五三詣の時期にも重なり、220鉢の色鮮やかな白・黄色・紫・桃色の菊が並び、訪れた人たちの目を楽しませています。

この菊花展は、菊の愛好家の集まり「大宮菊の会」が毎年開いているもので、今年で37回目となります。会場に並ぶのは、小菊が滝の流れのように、根より低く垂れ下がるような懸崖（けんがい）や直径20センチを超える大輪の花を咲かせる厚物（あつもの）、花弁が管状になっている管物（くだもの）、葉を鉢よりも大きくして花を咲かせる福助など、白・紫・黄色・桃色の鮮やかな菊、およそ220鉢です。どれも、会員の方が丹精込めて育てた力作揃いです。

ここ大宮八幡宮は、950年の歴史を持ち、応神天皇が主祭神です。応神天皇は、胎内にあるときからご神威を発揮され胎内天皇とたたえられました。そのことから、縁結びや安産、子育ての信仰につながっています。そのため、この時期には区内外から多くの七五三詣の家族連れで賑わいます。

菊花展では、その七五三詣にちなみ「7」「5」「3」の数字を形づくった、“文字菊”が展示されています。ここでしか見られない珍しい細工物です。数字を形作っているのは、たくさんの小さな黄色い菊の花ですが、それぞれの数字はたった1本の菊から造られています。この菊花展は、10月下旬から始まり、多くの参拝者の目を楽しませてきました。特に、七五三詣では、この「7・5・3」の菊の前が、記念写真の絶好の撮影ポイントとなっており、写真に彩りを添えています。厚物や管物では、花が終わりかけているものもありますが、文字菊は元気いっぱいです。展示は、11月23日までとなっています。



【場 所】 大宮八幡宮（大宮2-3-1）境内

【開催期間】 11月23日（月）まで（入場無料）

【交 通】 京王井の頭線「西永福駅」下車徒歩7分

【問い合わせ先】

大宮八幡宮：電話 03-3311-0105